

平成29年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立八王子特別支援学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹(教務主任兼務)=事務局長、副校長1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画課長、主幹6名 計10名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者、市内高等学校長、福祉施設長、職業安定所職業指導官、就学前施設長、市健康福祉部障害者福祉課長、近隣町会長、PTA会長、企業関係者、子ども家庭支援センター職員 計11名

2 平成29年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成29年6月16日(金) 内部委員 8名、協議委員9名
委員委嘱、委員紹介、学校運営連絡協議会の趣旨説明、授業見学、昨年度の学校評価報告、学校経営計画等の説明、協議
 - 第2回 平成29年10月10日(火) 内部委員9名 協議委員9名
授業見学、学校評価アンケートの検討、協議
 - 第3回 平成30年2月14日(水) 内部委員10名 協議委員6名
外部評価に基づく今年度の学校改善に関する提言、協議、
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成29年6月16日(金) 教 内部委員2名、評価委員3名
昨年度の学校評価の確認、今年度のアンケートの検討、学校運営連絡協議会の年間計画、アンケート実施手順の確認
 - 第2回 平成29年10月10日(火) 内部委員2名 評価委員3名
事務局が提案したアンケート案の検討、今後の予定の確認
 - 第3回 平成30年2月14日(水) 内部委員2名 評価委員3名
評価結果に基づく具体的な学校改善計画の検討、次年度に向けた方向性の確認、教職員への提言

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
学校が校長の学校経営計画に基づき、組織として良好に存続していくための、自主的な検証・改善を図るために、保護者、学校近隣の地域住民、卒業生等からの外部評価を積極的に受け止める。外部評価をとおして、学校の組織的な活動を中心に現状と課題について明らかにし、継続的な学校経営改善を実現するとともに、次年度の学校経営計画の策定に生かす。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
11月 保護者(401人 施設児童・生徒を除く)、地域(60人)、在校生徒(247人)、2年前と5年前の高等部卒業生(92人)
- (3) 主な評価項目
授業の進め方、個別指導計画、人権への配慮、説明・連絡、生活指導、進路指導、健康・安全指導、授業参観、避難訓練、教員の専門性、電話・窓口の対応
- (4) 評価結果の概要及び本校での課題
 - ①回収率及びアンケートについて※全校児童・生徒数は439名だが、施設生を除いた実数388名として計算

	保護者 334/388※ 86%			地域 23/60 39%	在校生徒 210/247 85%		卒業生 21/103 20%	
	小	中	高	台町三丁目 上野町三丁目	中学部	高等部	23年度	26年度
人数	139/145	58/62	138/194	23/60	25/25	218/233	16/45	19/47
回収率	96%	94%	71%	38%	100%	83%	36%	40%

- 全校児童・生徒数は444名だが、施設生等を除いた実数401名として計算した。(※1)
- 保護者からの回収率の推移(28年度86% 27年度81% 26年度85%、25年度90%、24年度94%、23年度91%、22年度91%、21年度80%)

②結果と考察

1) 保護者について

- 今年度については、質問項目が昨年と多少表記が違うが、内容的にはすべて同じである。ここ数年同じである【質問項目1】～【質問項目11】については、どの項目も肯定的評価が占める割合が80%以上であった。
 - ◇ これらの質問のうち、昨年度と比べて、ポイントが大きく上昇した項目はなかった。
 - ◇ 昨年度と比べて、大きく評価が下がった項目は以下の通りである。
 - 中学部 質問項目4【体罰等】(98→86)
 - 体罰については、定期的に児童・生徒と教員にアンケートや聞き取り調査を行っており、体罰はないという結果が出ているが、自由意見で指摘を受けたような教職員の言動については、次年度改善したい。
 - ◇ 評価が下がった項目については数が少なく、「判断できない」と回答している項目は肯定的評価が低い。全体的には8割以上の方から肯定的評価をいただいているため、本校の教育について、おおむね良い評価をいただいていると言える。
 - 情報の発信についての質問には、中学部と高等部で「判断できない」という評価が多く、他の項目に比べて、全体的にポイントが低くなっている。

- デイサービスとの連携について、学部によって、ポイントが上がったり、下がったりしている。他の項目と比べて、全体的にポイントが低くなっている。

2) 地域住民について

- 9項目の質問のうち、7項目で昨年度よりポイントが上昇した。一番大きく上昇したのは「敷地の整備について」の質問で12ポイントであった。

3) 在校生について

- 中学部生徒については、進路についての質問以外、ほぼ8割の生徒が肯定的な評価であるのは、例年の傾向である。
- 高等部3年生について、昨年度2年生の時の評価が低かったが、改善している。昨年度、評価が高かった1年生の評価が下がっている。2年生は進路を決める時期でもあることから、不安を抱えている生徒が多いのではないかと考えられる。

4) 卒業生について

- 役に立っていることについて、卒業年度によって、評価が大きく分かれている項目があるが、返事・挨拶・報告や人と仲よくできること、集中して作業ができること、時計が読めることが高いポイントなのは例年の傾向である。
- いただいた意見を校内に還元して、今後の指導に生かしていく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- 昨年度に引き続き、授業に関しては、おおむね良い評価をいただいている。授業で抑えるべき自立活動の4つの視点(実態把握・環境・動機付け・手だて)が定着してきた。新・転任者へのフォローは十分とは言えないが、スタートラインを合わせるための研修システムは構築できている。外部専門家との連携や研究・研修のシステムを引き継いで、教員の専門性の維持・向上を図っていく。
- はちとくアクションをホームページに掲載するなど、発信に力を入れているが、アクションとして報告する活動が2学期以降に集中していて、アンケートの段階ではそれほど多くの報告がなかったのが、昨年度同様の低いポイントにとどまっている一因と考えられる。また、ホームページに掲載しているものの、アクションの存在自体を知らなかったという回答もあった一方で、記事を読んでくださった方からは好意的な評価をいただいている。保護者の方が積極的に情報を得ることに限界を感じている。次年度は、すべてのアクションは難しいが、紙での配布も考える。
- 窓口対応について評価が低かったので、接遇研修を実施する。
- 体罰や不適切な指導については、自由記述に「乱暴な言葉遣い」等の記述があったが、本来は肯定的評価が100%となるべきものである。今後も管理職を中心に校内の巡回等を行って、必要に応じて注意・指導をしていく。
- 肯定的な評価が低かった放課後等デイサービスとの連携について、次年度は定期的に連絡会をもつなどして、より一層連携を深めていく。

5 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 11人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5		1				5

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

・なし

7 その他

・なし